

(前頁からの続き)

生を送ります」という誓いを神様の前で立てたことです。

先日、偶然に嵐電で、高野さん(ワイズメン)とお会いしたときの話ですが、「イエス・キリストと比較するのはおこがましいけどな。中瀬さん(ワイズメン)の生前の言動が、イエス・キリストのように、こころの中に生きつづけているんや。死んで生きかえったんだ。」というようなことをおっしゃっていました。ワイズメンの中にもキリストが生きているなあと感じました。

これまでの経験を振り返り、YMCA を考えるとき、そのクリスチャニティの問題を無視することはできません。そのことは価値の多様性を無視するというではありません。むしろ中心があるからこそ、さまざまな意見を相対化し力を結集することができ、100年を超える歴史を持っているのだと考えています。

軽度発達障害児理解セミナーに参加して

1月29日(土) 三条YMCA
平安徳義会 今井 幸子

今回、軽度発達障害児理解セミナーに参加させて頂き、有意義な時間を過ごせたことを嬉しく思っています。

まず、LD・ADHD・高機能自閉症、アスペルガー障害について、各々が、どのような困難を日常生活に伴わせているのか、改めて認識することができました。例えば、片付けができないという行動特性についても、先生の「頭の中の多動」との言葉に、納得させられるものがありました。

では、そのような子どもたちに、どう関わっていけば良いのでしょうか。この一番知りたい部分についても、ほめ方のコツ・トップダウン形式の学習への転換・ジョブコーチの必要性等、数々のお話を伺うことができました。

その中でも、特に印象的だったのは、「症状が問題なのであって、その児が問題なのではない。その人に合った環境を作れば、自立していける」という所です。子どもたちの困難に気づき、早く適切な方法に切り換えていく。それが、大人の責任だと感じました。

「何故できない」と、子どもを責めるのではなく、又、「こういう診断を受けたから」とわりきるのでもない。障害の有無、種別に関わらず、子どもが支援を必要としていれば、その方法を考えるしていくこと。日々、子どもたちと生活している者として、この姿勢を心掛けていきたいと思えます。

2月役員会例会報告

2月10日(木) 今出川YMCA
ドライバー委員 市橋 清太郎

YMCA の中田連絡主事が転勤されることになり後任に奈良YMCA から来られた辻中さんが新たにウエストの連絡主事をされることになりました。今日は引き継ぎでお二人とも役員会例会に出席頂きました。辻中さんは京都に来て早速、チャリティーランの運営係りに就かれているとの事です。そのチャリティーランにウエストでは様々な意見が飛び交った結果、タイムレース(駅伝形式)にエントリーすることになりました。出走者は5名です。誰が走るのでしょうか!?

CO2 走行距離の集計が終わりウエストホームページに掲載されたそうです。次は環境家計簿が始まります。今日の時点でまだ報告者は6名だそうです。みなさん協力して、環境を考える先進クラブとしてがんばっていきましょう。

今日は定刻通り19時半始まりでしたが、終わったのは22時前でした。みなさんお疲れ様でした。

出席者：メン21名



2月 役員会報告

議案 1	軽度発達障害理解の経費 50,000 円を Y サ予算から拠出。	承認
議案 2	YMCA 卒業アルバム記念品等に 30,000 を Y サ予算から拠出。	承認
議案 3	SO 応援メンバー・メットにクラブで旅費補助する。一人当たり 8,000 円。	承認
議案 4	次期会長主査研修会の登録費をクラブで補助する。15,000 円/人。	承認
議案 5	塚本ワイズ・星野ワイズ配属 2 名とも EMC 委員会に	承認
議案 6	4 月例会予定を 4 / 21 に変更の件	承認
議案 7	チャリティーランの参加について一般、小学生(徳義会)各 1 チーム参加費、協賛金 計 32,000 円 + 徳義会食事代を拠出する。	承認

スペシャルオリンピックス日本代表 野田コメット・和くんの壮行会

2月12日(土) 三条室町上ル 蒼(AO)
メネット会長 立山 益子



背中に富士山と桜をあしらった素敵なコートを着た和くんが、いつものスマイルで登場。コートの下には、やはり背中に富士山と桜のフリースを着ていました。暖かく、肌触りも良さそうで、これらはスペシャルオリンピックスの公式ユニホームなのでした。(ちなみにユニクロ提供)

和くんが皆の前で「スケート頑張ります。」と言う姿は、やはり「日本代表」のオーラが感じられました。そばにもらえる野田メンやメネットもとてもうれしそうで、こちらまでうれしくなりました。どうぞ和くん試合まで体調を整えて、頑張ってください。

参加者：メン7人・メネット5人・コメット2人

京都部スマトラ沖地震災害支援募金活動に 参加して

2月13日(日) 四条大橋
書記 山下 太郎

天気晴朗なれど風強しという寒い1日でしたが、四条大橋、三條大橋、河原町三條の3ヶ所で災害支援募金活動が行われました。

私はコメットと共に四条大橋で活動に参加しました。

日曜日ではありましたが朝10時ということでまだ人の出が少なく思ったほど集まらなかったように思います。ただわざわざ引返して募金してくださる方もおられ感謝感謝の経験をいたしました！

微力ながらこういった活動に参加することによってこれからも災害支援についての意識を持ち続けたいと思いました。

それにしても子供の力は強くコメットの持つ募金箱が一番重かったようでした！！

参加者：山下、山下コメット



星野YS・塚本YS歓迎会&第6回遊ば会報告

2月15日(火) 御池衣棚上ル 清水屋
EMC委員長 桂 厚子

寒い夜道の大きなちょうちんの手前の灯りの店が清水屋さん、すっぽんなべが、待ってます。いやいや首をすくめて、私が待っているのは、すっぽんじゃなくて胡内ゲストで、私の同級生の、松井君。そして私のゲストは、同業若手の奥村君。が来てくれはるのですから首をのばして、待っておりました。よく来ていただきました！

メンバー16人ゲスト2人が、ながーく2列で並び、遠いモンですから、お互いのタコ紹介が、いや他己が始まって、途中で茶々が入り、合いの手が入りで、にぎやかなことでした。

そやけど鍋の前で、島田ワイズが、すっぽんをかき回しては気持ち悪いもん摘み上げ、ここはどこ？とのたまうので、すっぽんってこんなに気持ち悪い形だったのか、、、と一瞬ひるんでしまいました。

ぜひお気軽に、また誘っていただけるようなあそび会をしたいと思います。

参加者：メン14名、メネット1名、コメット1名、
ゲスト2名



2月例会(TOF例会)報告

2月24日(木) 今出川YMCA
地域奉仕委員 大西 光子

森伸二郎西日本区書記とゲスト金澤典子さん



TOF例会でお話される辻中連絡主事



今月の断食例会は、今出川YMCAで開催されました。西日本区でもメンバーの増加について活動されている森西日本区書記から、すてきなゲスト金澤典子さんを紹介していただき、みんな新しい仲間が増えることに期待してウキウキしていました。

ティータイムはおせんべいとお茶、一食抜くことでの寄付の意味は、今でも飢餓にあえいでいる世界の子供達に手を差

し伸べようと続いて話された辻中連絡主事の「募金は募心」、クイズ、頭と体の体操でみんな納得し、今できることを行動していると実感。

その後、新メンバー高山、荒木、星野ワイズの率直なスピーチ、ベテランメンバー高野、笹山ワイズのそれぞれ個性豊かなスピーチ、その間励ましのかけ声や合いの手が飛び交い笑い声につつまれ、心がほっこりと暖くなるウエストならではの例会でした。

「断食、飢餓」はすごく厳しい響きの重い言葉ですが、私達の日常生活からは抜け落ち、忘れ去られています。常日頃私は健康のため食事制限だ、ダイエットだと言っても、ついつい飽食の生活を繰り返し、反省させられました。「いただきます」の意味(命をいただく)も改めて考えさせられました。

出席者：メン21名、ゲスト2名

辻中康宏 新連絡主事紹介！！



2005年3月からウエストワイズの連絡主事を担当させていただくことになりました辻中康宏と申します。2005年1月より京都YMCAにお世話になったばかりですので、分からないことがまだまだあり、皆様にご迷惑をおかけするかもしれません。でも精一杯頑張りますのでよろしくお願ひ申し上げます。

私は奈良生まれの奈良育ちの1955年5月生まれの子の末年のA B型です。まだまだ若いと思っていましたがあと2ヶ月で50才、子どもも19歳と15歳の父親となりました。

YMCAとの出会いは、私が大学に入学したてのころ高校の先輩から突然電話がかかってきて「楽しい所だから一度遊びにおいでよ」と誘われ、軽い気持ちで奈良YMCAを訪れたことに始まります。

主事は5人だけという小さいYMCAでしたので、野外活動やサマーキャンプ、短期水泳、スキーキャンプ、手が足りない時は体育教室にリーダーとして参加させて頂いていました。また地域奉仕活動の肢体不自由児クリスマス会やキャンプにも参加させて頂き、YMCAのリーダーをさせていただいたお蔭で他団体の友人も多くでき、貴重な経験となっています。大学卒業後は、奈良YMCA体育野外部専任講師を1年経験の後、1979年より奈良YMCAに奉職させて頂きました。体育野外全般を担当の後、1982年に屋内温水プールが開設され、担当主事につかせていただき、以後スイミング・公営プール受託事業・成人フィットネスとプール関連のプログラムを約20年間担当させて頂いていました。京都YMCAにお世話になり、専門学校を担当させて頂いています。初分野で勉強の毎日ですが、専門学校の皆さんから温かく導いていただいております。感謝の日々でもあります。

奈良ワイズメンズクラブの方々には長年にわたり、数々の労いや励ましの機会を持っていただき、公私ともども大変お世話になり、感謝しています。また元メンバーや元リーダーも奈良ワイズメンズクラブに入会し、今も頑張ってくれているのは、うれしい限りです。

阪和部の皆様やDBCの御殿場クラブの皆様との交流、また韓国慶州花郎クラブ例会出席のために韓国を訪問したことなど多くのワイズの皆様と過ごさせていただいたことは貴重な経験であり、心の財産となっています。

ウエストクラブの連絡主事をさせて頂くことになり、喜びでいっぱいです。皆様との交流を通してこれから多くのことを吸収して行きたいと思っております。宜しくお導きくださいます様お願いいたします。

初めての東西日本区交流会について

2月19日～20日(土・日) 日本YMCA同盟 東山荘
交流委員長 森田 恵三

去る2月19日・20日、一泊2日のスケジュールで初めての東西日本区交流会が東山荘にて開かれ、クラブからは野田・河合・牧野・森田・森田メネットの5名が参加しました。今回の交流会の試みは参加者440名(東250名・西150名・アジア地域議会参加者40名)と予想を上回る盛況、内容的にも工夫の凝らされた会でした。

交流会の流れを記すに当たり、この機会にここに至る経過も記録として残しておきたいと思っております。

1988年の京都国際大会を成功させた日本区といえども、ワイズダム発展を視野に入れるとき、何かもう一つ盛り上がり欠けるムードがありました。その打開策は、ともかく一歩前進することだと、時の中村次郎理事(福岡中央)がワンステップ委員会を設置され、私も参画、つづく加藤栄利理事が組織検討委員会に発展させられました。この2年間の継続検討の結果を引き継いだのが第38代理事としての私でした。

"拡げよう社会にワイズの大きな輪"をテーマにしたこの年度の上半期を終えた1993年1月からの下半期から東・西副区がスタートを切ったのでした。全国ワイズが一堂に会する最後の大会となった1997年6月名古屋での第50回日本区大会で東・西副区は終結。7月を期して日本区は東西両区に分割独立しました。

云うまでも無く、その後は毎年6月には東西それぞれが大会を開催してきましたが、東から西へ、西から東への大会参加者は少なくなってきたため、交流の策として国内兄弟クラブ(DBC)締結が奨励推進されてきました。しかし、何となくせまくて限られたクラブ間の交流であり、淋しさ、懐かしさも募り2年に一度は東西の合同大会の開催が考えられたりしましたが、果たされぬままに推移してきました。

本年6月開催の東西日本区大会が会場の都合で同日開催止む無きに至ったことと、アジア地域議会が東山荘で開催されることを機縁として、初めての交流会が企画実施されたというわけであります。今後とも継続実施されるか否かは定かではありませんが、私見としては東西ワイズの旧交をあたため、未来を語り、互いに刺激し合える関係としてワイズダム発展のために意義ある企画と思っておりますので、3・4年に一度はその実施を期待したいと思います。

以下2日にわたる交流会の参加感想記は他に譲るとしてプログラムの概略を記しておきます。

大会テーマ「みんな集まれワイズはひとつ！新しい友達を見つけよう」

(第1日)

1. 開会式・・・国際会長・東西理事挨拶
日本区YMCA同盟総主事挨拶

2. 交流プログラム

- (1) K G法による「クラブ例会の活性化を考える」
(河合・牧野・森田)
- (2) 歌の会 東京世田谷クラブのCS活動の実例
(森田メネット)
- (3) B F代表の報告を聞く会
- (4) パソコンによるブリテンの作り方(野田)
- (5) ワイズにおけるクリスチャニティ
- (6) アジア地域会議傍聴

3. 夕食懇親会

開会の挨拶を森田が元日本区理事として担当し、理事テーマとした"拡げよう社会にワイズの大きな輪"に加えて「東山荘の大きな輪」を出席者全員でパフォーマンス。ドアブライスの当りは河合さんだけに終わる。

4. 交流の夕べ
5. フェローシップアワー
東京ひがしクラブメンバーと楽しく歓談。
(ウエスト引継ぎ例会には来訪、ひがし水かけ祭りに訪問を約す)

(第2日)

1. 礼拝のあとアクティブな部の事例発表
2. DBC締結式
3. 閉会式

12時送迎バスにて三島駅 「本町うなよし」で昼食



東西日本区交流会 ~参加者の感想を一言~
 森田直子メネット・野田泰伸・
 牧野万里子・河合久美子

ワイズは楽しい

森田 直子

懐かしさを覚え、昔話に花を咲かせるのは歳を取ったせいでしょうか。旅行を共にした方・大会ではいつも出会っていた方・お土産をもらった方と東山荘で開催された東西での交流会は久しぶりに出会った方々との楽しいひとときでした。

当日は前夜からの突然の大雪で到着が遅れる人や、朝のウォーキングは中止となったりで、ハプニング続出でしたが、そこはワイズ！皆それぞれに有意義な時を過ごされていたようです。

以前から三島に来たら「うなぎだよ」と聞かされていたうなぎの美味しい所「本町うなよし」を探し当て昼食後帰路につきました。

静岡に折角来たのだから、帰るまでにはメンバーに富士山を見せてあげたいという思いが通じたのか、新幹線三島駅の真正面に雪をかぶった富士山が頭を雲の上に出しました。

やっぱり富士は日本一の山でした。

東西交流会 報告

野田 泰伸

送迎バスが東山荘に着くと同時に、東京ひがしクラブ、金丸ワイズ、鮎沢ワイズに出迎えていただき、受付はかなり込み合っていたもののすぐに登録できました。私にとって東日本区の皆様と交流するのは東日本区大会が沖縄で開催されて以来久々でした。西日本区の皆様とは部会で濃い交流が出来、親しくなれたおかげで、懐かしさを感じました。東日本区の皆様とは新鮮な気持ちで交流することができました。

一部の例会では、国際会長 John L. Choa 他役員の方々のすぐ後方の席で写真を撮っておりました。英語での挨拶とかすかに聞こえる同時通訳からは、国際クラブの特色を感じました。残念ながら英語力のない私にとって所々しか理解でき

ませんでした。

次の分科会ではパソコンによるブリテンの作り方を選択しました。東の十河ワイズの講師で2時間半にわたる勉強会でした。全体的には理解できましたが、一つ一つを考えますと実際にパソコンを使って作業しないと身に付きませんでした。

西日本区企画の懇親会ではやはりクラブ同士が集まったり、西日本区の面識のある方ばかりと懇親していたような気がします。フェローシップアワーでは東の重鎮、鈴木健次ワイズをはじめ東京ひがしクラブと水かけ祭りの話で盛り上がりました。8月にはウエストクラブからも参加しましょう。飲みきれない程のお酒がありがんばって飲みました。三次会も経て眠気を振り払い四次会に大野勉ワイズと部屋へ帰ると京都パレスクラブの座談会中で、また座り込み、最後はいつもながら…。記憶の無いまま朝になりショルダーバッグの無いことに気づき、捜した末結局見つかりましたが皆様大変お騒がせしました。東山荘では雨の印象が強いですが、三島のウナギと新幹線の駅から見えた富士山で満足しました。

次年度の東日本区大会には是非こぞって参加しましょう。

交流プログラム(分科会) - KJ法によるシンポジウム - 「クラブの例会の活性化を考える」に参加して

牧野万里子

KJ法とは、「各自が思いついたアイデアを短冊にメモしそれを項目ごとに収束させ、項目ごとに模造紙に貼り付けていき、アイデアの組み合わせで新たな意味を発見する。」という方法です。

約8名のメンバーが5グループに別れそれぞれのグループで作業を進めていき、最後に各グループの発表です。各メンバーからは積極的な意見が出され、非常に活気のある雰囲気でした。普段あまり交流のない東日本区のクラブのメンバーの方々と、このような機会を持つことができ、とても勉強になりました。またワイズ歴45年という大先輩ともお話しすることができ、改めてワイズの歴史を実感いたしました。

今後のクラブ活動に役立てていきたいと思えます。

幻の富士山と意義ある交流会

河合久美子

東山荘は初めてでしたので、「富士山が見えるよ！」というお話を聞いて期待していたのですが、生憎天候はいまひとつ。日本一の山の雄姿を拝むことはできず、雪景色の中に雨が混じる、とても寒い二日間でした。

交流会では、異なる地域のワイズの人々と様々な交流を持つことができました。まず、DBCの東京ひがしクラブの皆さんにお会いし、語り合い、親交を深め合うことができたことが、何よりの大きな収穫であったと思います。さらに、このような機会がなければお会いすることも難しかったであろう東日本区の方々とも分科会などを通じてお話ができたことは貴重な体験でした。また、同じ西日本区であっても普段なかなか交流できない、遠く離れた地域のクラブの方々にも目にかかることができ、大変有意義でした。積極的に外へ出て行けば行くほど、ワイズの世界も無限大に広がってより楽しくなるのだということが実感として少し分かってきたような気がします。やはり、ワイズメンであるからこそ、このように日本中(あるいは世界中)の人々と知り合える訳で、その幸運に感謝するとともに、今後も出逢いを大切にしていきたいと感じました。参加者の年齢層が高めな雰囲気でしたので、もし次回があるなら、ウエストからも若いメンバーが多く参加できればもっと活気付くかなとも思いました。

帰路は徐々にお天気になり、三島駅のホームから富士山の真っ白な山頂が見え隠れしていました(1日ずれば良かったのにね!)。外の寒さとは裏腹に、この二日間の充実私に心は温かくなり、京都への家路についたのでした。